

## 暮らしに関わってきた身近な森林の今 —特に海岸林と雑木林について—



昔から生活のためにつくられてきた身近な林が、時代の変化を経て今どのような状態にあるのか、海岸林と里山林を例に、研究成果をふまえて整理しました。

講師 島田和則（気象環境研究領域）

# 暮らしに関わってきた身近な森林の今 —特に海岸林と雑木林について—

森林は多面的機能を持ち、様々な恵みを人間にもたらしてきました。さらに、人間はこの恵みを得るために、身近なところにも積極的に森林をつくってきました。農業のための肥料や生活のための燃料を得るための雑木林、海辺の生活環境を守るための海岸防災林などです。しかし、時代を経てこれらの林をとりまく社会状況は大きく変わりました。

雑木林は、旧来の利用がなくなってから放置されるようになり、質的变化が指摘されるようになりました。そこで、新たにボランティア等の新しい主体による管理がされるようになりました。新しい主体による管理は、対象林分をよく選び、適切な方法で行えば、保全効果が期待できます。

わが国の海岸林の多くはクロマツ林ですが、マツ枯れによる被害が深刻です。そこで、手をかけずに防災機能を維持するために、広葉樹林化することを検討しました。

